

本部委員会の審議内容

第1回 利用促進委員会 (R4.4.20)



高橋委員長



松澤副委員長



令和4年度第1回利用促進委員会は、新型コロナウイルス感染症防止対策に万全を期すため、開催場所を通運会館に変更し開催した。委員会の冒頭に、委員長・副委員長の選出を行い、議題では、令和4年度委員会テーマの調査方法となるアンケート調査票の内容について審議を行った。

1. 委員長・副委員長の選出について

- 委員長 高橋 啓 (日本通運株式会社)
- 副委員長 松澤 新 (ハウス食品株式会社)

2. アンケート調査票の内容について

【年間テーマ】

「荷主企業の各種サービスに対するニーズなどに関する調査研究」

【サブテーマ】

「物流の2024年問題の影響などに関する調査研究」

令和4年度は上記2テーマについてアンケート調査を予定しており、アンケート調査票については「鉄道コンテナ輸送に関するアンケート調査票」(荷主企業用・物流事業者用)と題し、昨年度同様2テーマを1つのアンケート調査票にまとめて実施することにした。

<調査項目>(一部抜粋)

(1) 物流の2024年問題に関し、各企業における現時点での認知度

- ア. 上限規制の適用日、内容ともおおむね知っている
- イ. 上限規制の適用日は知っているが、内容は知らなかった
- ウ. 上限規制の適用日は知らなかったが、内容についてはおおむね知っている
- エ. 上限規制の適用日、内容ともほとんど知らなかった
- オ. その他()

(2) トラックドライバーの時間外労働時間の上限規制に伴い、物流業界においては諸問題の発生が予想される。各企業ではどのような影響を受けると予想するか。想定される影響の大きい順に、主なものを5項目選択

- ア. 長距離トラックの確保が困難になる
- イ. 中・短距離トラックの確保が困難になる
- ウ. 鉄道・船舶輸送の集配トラックの運行に支障が出る
- エ. トラックの確保難を受け、鉄道輸送の枠の確保が困難になる
- オ. トラックの確保難を受け、船舶輸送の枠の確保が困難になる
- カ. トラック運賃が上昇する
- キ. 鉄道・船舶など他の輸送モードの運賃が上昇する
- ク. 特に大きな影響はないと考えている
- ケ. その他()
- コ. 分からない

(3) 調査項目(2)で挙げられた影響に対し、各企業ではどのような対応策を実施または検討しているか。該当する項目をすべて選出

- ア. トラック事業者との連携強化や運賃上昇の容認などにより、トラック輸送の安定確保を図る
- イ. 荷主同士の連携を強化し、各種共同化の推進などの物流効率化を図る
- ウ. 返品物流など無駄な物流を極力削減するように図る
- エ. パレット化や機械化の推進などにより、トラックの荷役時間短縮やトラックドライバーの労働環境の改善を図る
- オ. トラックの入構時間管理などにより、トラックの待機時間などの削減を図る
- カ. トラック以外の輸送モードの利用を拡大する
- キ. その他()
- ク. 分からない

(4) 調査項目(3)で挙げられた対応策について、「①すでに対応済」「②進行中」「③今後実施する予定であるが現時点では未着手」の3つに分類し、回答欄に番号を記入。また、③と回答した対応策について、現時点で未着手となっている理由および今後の方針(いつ頃着手するか、など)についても記入

(5) 各企業において、鉄道コンテナ輸送の利用拡大を阻害している要因に影響が大きい順に、主なものを5項目選択

- ア. トータル運賃・料金が他モードより高いケースがある
- イ. 近隣のオフレールステーションの廃止などに伴い、従前より集配料金が高くなっている
- ウ. リードタイムがトラックよりも長い
- エ. 輸送障害が時々発生するなど、定時性の点で問題がある
- オ. 大規模輸送障害が発生すると復旧まで時間がかかり、その間の手配などが大変である
- カ. 大規模輸送障害が発生した際、代替輸送の手配など、対応に不満がある
- キ. 近年、輸送枠が確保しにくくなっている
- ク. 荷物事故が多く、輸送品質に問題がある
- ケ. 大型コンテナを利用したいが、近隣に取り扱い可能な駅がない
- コ. その他()
- サ. 特に阻害要因はない
- シ. 分からない

第1回 輸送品質向上委員会 (R4.4.22)



前田委員長



上松副委員長



令和4年度第1回輸送品質向上委員会は、新型コロナウイルス感染防止対策に万全を期すため、開催場所を通運会館に変更し開催され、委員長・副委員長の選任及び令和4年度委員会テーマの調査企画内容について審議された。

1. 委員長・副委員長の選任について

- 委員長 前田 望 (日本貨物鉄道株式会社)
- 副委員長 上松 良太 (日本石油輸送株式会社)

2. 年間テーマ

「養生機能を施したコンテナの開発・検証」

この検証に使用する12フィートコンテナ1基が、3月末に完成したことが報告された。今後、養生機能に使用する資材の選定を行い、コンテナ内部の改造後、試験輸送が実施されることとなった。

3. サブテーマ

「防振装置搭載鉄道コンテナの実用化に向けた検証調査Ⅲ」

令和3年度までに実施した19品種(内軽量製品4品種)とダミーウエイトでの2試験との合計21回の試験輸送の結果を踏まえ、今年度は、搭載する製品質量を特に考慮した試験輸送を実施する計画であることが報告された。

* * *

当協会所有の私有コンテナのご紹介

1. 31フィートウイングコンテナ



通風機能を有し、遮熱塗料で塗装され、内側壁面は抗菌処理のされたベニヤを使用しています。

31フィートウイングコンテナの利用を検討されている会員企業の皆様は、試験輸送を実施する際に気軽にご活用いただくことを目的として設備しました。会員企業の皆様は、コンテナ使用料を無償でご利用いただけます。

なお、31フィートコンテナの鉄道輸送に際しては、輸送区間の登録が必要です。登録のない区間の輸送をご希望の場合、登録に時間を要します。また、鉄道の設備の関係で、ご利用のできない区間がありますので、あらかじめご了承ください。

2. 防振装置搭載鉄道コンテナ



コンテナ床下に設置される防振装置

床下に防振装置を搭載した12フィート通風コンテナです。輸送品質向上委員会では、このコンテナを使用した試験輸送を行っています。本年度も4回の試験輸送を予定しており、コンテナ内部に振動計を設置し、防振機能の有効性について調査・検証を行います。この輸送試験にご協力いただける企業がおられれば、業務部までご連絡をお願いします。

3. 養生機能を施したコンテナの開発



設備した12フィートコンテナ

養生機能の概略図

鉄道貨物輸送においては、輸送品質を保持するための養生について、資材の購入や維持管理、養生に要する作業時間等のコストが、お客様や利用運送事業者の大きな負担となっています(昨年度の輸送品質向上委員会の調査結果)。

この調査結果を踏まえ、コンテナそのものに養生機能を施せないか、本年度の輸送品質向上委員会で検討・検証していくことになりました。

当協会は、12フィートコンテナ1基を新たに設備し、概略図のような改造を行い、その有効性を検証していきます。養生機能のアイデアや、養生に使用する資材(軽量・耐用性・安価)についてのアドバイスを是非、お寄せください。